



# 会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

## 発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会  
発行責任者 横地常広  
編集責任者 深澤憲治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号  
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722  
ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1~P4 全国「検査と健康展」2024 各地からの報告 第5回  
P4 令和6年度日臨技事業説明オンデマンド研修 を開催！  
P5 都道府県技師会 各地での取り組み（長野県編）

## 全国「検査と健康展」2024 各地からの報告 第5回

### 和歌山県

今年の全国「検査と健康展」和歌山会場は、12月14日(土)に昨年と同様イオンモール和歌山で開催しました。この日はカイロスロ



ケット2号機が和歌山県東牟婁郡串本町にあるスペースポート紀伊から打ち上げ予定となっており、イオンモール和歌山でもその模様をパブリックビューイングで観覧するイベントが用意されていました。しかし、当日の朝10時半ごろ強風のためカイロスロケット2号機は打ち上げ延期が発表され、昼過ぎには雹が降る悪天候となりました。果たして何人の方が会場に足を運んでくれるのだろうかと不安に思っていたのですが、この悪天候と開催が歳末セール真っ只中と重なった事が功を奏し、午後からは会場内のどのブースも満員となるような多くの方々にご来場いただき、最終的には来場者数158名と昨年を上回ることができました。

今年のブースを紹介すると「白衣試着体験」「乳房触診体験」「臨床検査と検査項目の説明・パネル展示」「臨床検査技師養成学校のパンフレット設置」「頸動脈エコー体験」「顕微鏡体験(血液像・細胞診)」「PPE着脱体験」「検体採取模型を用いた鼻腔からの検体採取」「認知症に関するポスター掲示」「みんな知ってる？臨床検査技師のしごとDVD上映」「アンケート記入」です。イオンモールでの開催ということもあり、幼児や小学生と30代、40代の方が親子で多く参加され、「子どもと一緒に学べてよかった」や「子ども達が進んで色々な体験をしようとして学べてよかった」というような嬉しいコメントも多くいただきました。ちまたで人気の「はたらく細胞」の影響もあり、小さなお子さまが「顕微鏡見たい！」と言って

入って来られたこと、白衣を着て「お医者さんみたいでカッコイイ！」と喜んで親御さんが写真を撮られていたことが印象的でした。どのブースのスタッフも丁寧に視線を合わせて説明・傾聴し、来場いただいた方々には少なからず臨床検査技師の仕事と検査の重要性を認識していただけたのではないかと思います。来年も是非、足を運んでいただきますようお願いいたします。

(和歌山県臨床検査技師会 橋本安貴子)

### 鳥取県

今年度も幅広い年代の方々に来場していただき、臨床検査技師を知っていただける良い機会となりました。特に今年度は家族連れの出場者がほとんどで、小学生や幼稚園・保育園児の出場者にも顕微鏡画像や超音波検査装置でのフルーツゼリーの中身当てゲームで楽しんでもらうなど、日常にはない体験をしていただけたかと思えます。子どもたちの将来の希望職に臨床検査技師を考えてもらう一助となる企画であったと思えます。

(鳥取県臨床検査技師会 岩田 和宏)



### 島根県

10月19日(土)イオンモール出雲で開催しました。実務委員27名に参加いただき、事前の広報と、当日に施設内をパンフレット配布と案内に回り、多くの来場者にお越しいただきました。

今年も健康チェックとして血圧測定、骨健康度



チェック、血管年齢測定、貧血検査を、職業体験として超音波検査を実施しました。臨床検査・認知症のパネル・ポスター展示も併せて行いました。健康チェックは「検査を受ける機会がない」という理由から骨健康度チェックの参加が多く、開催の手応えを感じました。この機会に検査や結果の説明を行うことで臨床検査技師を認知してもらうチャンスであり、実際に実務委員が丁寧な検査・結果説明を行う姿は、まさに認知される瞬間だと感じました。

超音波検査の体験コーナーは、ゼリーの中のフルーツを当てるクイズ形式で行いました。「臨床検査技師になったつもりでやってみましょう！」と声かけすると体験者も真剣な表情に変わります。まず、中身が見えているフルーツで予行演習した後にクイズを行うため、ほぼ全員が正解。指導する実務委員の説明が的確であったことが証明されました。参加してくれた子ども達にも臨床検査技師という職業を楽しく紹介できたと思います。

今回参加いただいた実務委員は若手技師が多く、先輩技師の巧みな検査説明や対応を学び、生かしながら来場者と談笑する様子もみられ、若手技師の参加を有意義なものにする活動であったと思います。

(島根県臨床検査技師会 石倉 陽子)

## 岡山県

岡山県臨床検査技師会では、2024年11月9日(土)、イオンモール倉敷2Fイオンホールにて「検査と健康展」を開催いたしました。

当日は196名(108グループ)の方々にご来場いただきました。無料検査では、骨密度や血管年齢の測定に多くの方が関心を示され、特に頸動脈エコー検査は無料検査としても珍しく、ご自身の血管の状態を実際に画面で確認できることに驚かれる方が多くいらっしゃいました。

臨床検査体験では、お子様を中心に血液細胞やがん細胞の顕微鏡観察、果物ゼリーを使った超音波検査体験など、普段見ることのできない臨床検査の世界を体験していただきました。参加された方々は熱心に観察され、臨床検査技師の説明に真剣に耳を傾けていらっしゃいました。

出前オープンキャンパスでは、各大学の担当者から直接話を聞ける貴重な機会となり、将来の進路選に向けて具体的な情報を提供することができました。

イベントの運営には、岡山県臨床検査技師会の役員および県内医療施設の臨床検査技師42名が携わりました。今後も県民の皆様の健康づくりのお手伝いができるよう、このような機会を設けてまいります。

(岡山県臨床検査技師会 中川 尚久)

## 広島県

10月26日(土)広島市中区紙屋町シャレオ中央広場にて全国「検査と健康展」を開催した。広島県臨床検査技師会からボランティアを募り、実行委員と合わせ43名の会員が参加した。実施検査項目は骨密度検査、簡易血糖検査、簡易貧血検査、認知症スクリーニング検査を行った。また、専門医にご協力いただき、健康相談を行った。

デパートや停留所が隣接する地下街のオープンスペースを会場とした。そのため通りがかりに参加された方が多く、300名を越える来場者があり検査待ちの列ができるほどであった。延べ検査件数(健康相談を含む)は1,000件であった。普段なかなか機会のない検査を体験でき、また、医師による健康相談では「直接医師に相談できて良かった」と、来場者にはたいへん好評であった。そして、臨床検査技師の存在を知らない方々へ臨床検査技師と臨床検査について説明したり、日臨技が作製したリーフレットやDVDも見ていただいた。

ボランティアスタッフも日常の業務と変わらず、丁寧な対応で来場者の案内、検査の実施、検査についての説明を行い、来場者からも「スタッフの方が優しく良かった」、「臨床検査技師の仕事を知る機会になった」などの声が寄せられた。全国「検査と健康展」での活動を通して臨床検査技師の認知度の向上につなげることができた。

最後に、来場者に無料で4種類の検査ができたのは、快く検査機器や試薬等を提供していただいた検査機器メーカーのおかげであることを忘れてはならない。

(広島県臨床検査技師会 川西 なみ紀)

## 山口県

令和6年度全国「検査と健康展」を山口県は11月23日(土)におのだサンパークにて開催し、各展示ブース来訪者の合計は244名(延べ人数)でした。

昨年に引き続き臨床検査や臨床検査技師に対する認知向上を目的として、市民の方に臨床検査を体験していただく形で開催しました。展示内容は昨年と同じ顕微鏡体験・超音波検査体験・検体採取体験・大学紹介に加え、新たに認知機能検査体験を企画しました。

順番待ちが生じた昨年の反省を踏まえて顕微鏡や超音波装置の台数を増やし、また、展示内容が増えたこ



とで、多くの方にご来場いただきましたが、円滑にご案内することができました。会場の空いたスペースでは、プロジェクターでPR動画『みんな知ってる？臨床検査技師のしごと』を壁に常時再生し展示していない検査についても紹介することができました。複数の展示ブースを見て回る方も多く、臨床検査について知ってもらっただけではなく、ご自身の健康について改めて関心を持っていただく機会となったのではないかと思います。

今後も臨床検査や臨床検査技師についてより多くの方に知っていただき、市民の皆様の健康に貢献できるような内容を企画していきたいと思っております。

最後に、開催にあたりご支援を頂いた企業の皆さまに心より御礼を申し上げます。

(山口県臨床検査技師会 森重 彰博)

## 徳島県



2024年10月27日(日)  
徳島大学蔵本キャンパス  
医歯薬学共創プラザにおいて「検査と健康展」を

開催しました。2階エレベーター前に受付を構え、来場者の皆様に対して臨床検査に関するリーフレットの配布と検査体験コーナーへの案内を行いました。スタッフとして徳島県立中央病院、きたじま田岡病院、吉野川医療センター、徳島大学病院、徳島大学より計17名の徳島県臨床検査技師会員の皆様および徳島大学医学部保健学科より計3名の方々にご協力いただきました。

顕微鏡検査体験では、血液細胞の正常像と白血病などの異常像の観察や、心筋・肝臓・膵臓・腎臓など組織の観察を体験してもらい、血液型検査体験では、試験管法によるオモテ検査を体験してもらいました。超音波検査体験では、人体模型を用いて腹部超音波検査を体験してもらいました。その他、様々な種類の清涼飲料水の糖度の高さを予想する「糖度当てクイズ」や学生を対象とした「学生進路相談コーナー」のブースも設置しました。148名の方々にご来場いただき、臨床検査技師の業務内容や検査の重要性について広く啓発することができました。ご来場いただいた方々から「勉強になった!」や「楽しかった!」というお言葉をいただき、スタッフにとっても大変有意義な時間となりました。

検査と健康展は臨床検査についての正しい知識の普及・啓発を目的としています。会員の皆様には引き続きご協力賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

(徳島県臨床検査技師会 藤川 貴弘)

## 香川県



香川県臨床検査技師会では、令和6年9月16日(月)フジグラン丸亀にて、健康フェスタinフジグラン丸亀(「検査と健康展」)、11月2日(土)香川県立保健医療大学にて、全国「検査と健康展」を開催しました。

9月16日のフジグラン丸亀の開催は3回目となり、私たち臨床検査技師会からは両上腕血圧測定、酸素飽和度測定、骨密度測定、超音波体験、資料配布などを行いました。今回から運営担当になりましたが、準備がなかなか上手くはかどらず、色々ご迷惑をおかけしましたが、皆様のご協力のもと無事開催できました。今回22名の方にスタッフとして集まっていたいただき、皆様のお陰で比較的スムーズに運営できたと思っております。開催場所が変わったことで、来場者が少ないのではと思いましたが、115名の来場者があり安堵しました。来場者にはアンケートをおこない、アンケート結果として、来場者の年齢別では70歳代がもっとも多く、約8割が50歳以上でした。年齢が高いほど健康に関心があると思われます。また臨床検査技師をよく知っていたが32%とまだまだ認知度が低いように思います。臨床検査技師の認知度を少しでも上げるためにも、このような地道な活動を我々臨床検査技師は続けていく必要があります。また、若い世代にも関心をもってもらいには若手の方々に参加していただき、意見をだしてもらい進めていくことが必要だと思っております。

11月2日の香川県立保健医療大学の開催は、台風の影響で朝6時の時点で高松地域に波浪を除く警報が発令された場合は全国「検査と健康」も中止という状況でしたが、警報は発令されず、開催することができました。受付が10時~12時半で 天気が悪い中、93名の方に来場していただきました。検査コーナーとして、骨密度測定、酸素飽和度測定、握力測定(サルコペニア簡易チェック)、AGEs測定、ポスター展示(HIVポスターなど)、資料配布、今回は臨床検査技師会紹介動画を流しました。スタッフとしては令和6年度日臨技中四国支部医学検査学会が11月2日・3日に開催されるということで、人員が集まるか心配していましたが、最終的に19名の方に参加していただき、無事運営することができました。香川県立保健医療大学大学祭での全国「検査と健康展」であり、フジグラン丸亀での開催と比較して、10代・20代の年齢層が多く、来場者の流れもイベント終了後に一気に集中しての混雑ぶりに驚きました。調査結果として共通しているのは臨床検査技師の認知度の低さです。もっとアピールしていかなければならないと思いましたが、今回は規模を縮小して開催するということでしたので、次回は新しい企画を相談して増やしていけたらと思います。

(香川県臨床検査技師会 篠原 由美子)

## 愛媛県

愛媛県臨床検査技師会では、令和6年9月28日(土)と29日(日)の2日間、株式会社フジ様のご協力のもと、エミフルMASAKI エミモール1階グリーンコートをお借りして「検査と健康展」2024を開催いたしました。



一般市民を対象に健康増進と生活習慣病予防に関する啓発、そして臨床検査技師のことをより知っていただくことを目的に、エミフルを歩きかう人たちに声をかけながら健康チェックを勧めました。

健康チェックでは検査機器3台(認知機能測定、簡易ヘモグロビン測定、体組成計)による測定を実施し、糖尿病療養指導士による血糖測定や、糖尿病専門医による血糖値相談、臨床検査相談などを実施いたしました。参加者数は、28日(土)に518名、29日(日)に468名、2日間合計で986名の参加がありました。例年ならば朝10時に開店し11時頃まで参加者は少ないのですが、この2日間は大変忙しいものとなり、大盛況でした。

市民の皆様の健康に対する関心の高さを改めて実感することができました。毎年来られている常連さんもありましたし、「楽しみにしてたんよ」「毎年これ楽しみにして来よるけんね」等、市民の皆様とのふれあいも楽しみの一つとなりました。また、来場された皆様には季刊誌『ピペット』やクリアファイル、ボールペン、糖尿病啓発冊子等の配布を行い、臨床検査技師の知名度UPを図り、こうしたイベントを通じて広く知っていただくよい機会となりました。

2025年度は、さらに楽しい企画を用意して、皆様に参加しやすいイベントを作っていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

(愛媛県臨床検査技師会 川上 智也)

## 高知県

2024年9月29日(日)、イオンモール高知2階イオンホールで「検査と健康展」高知会場を開催しました。新聞折込チラシやポスターを見た方など153名の方にご来場いただき、臨床検査体験や健康チェックなどを体験していただきました。技師25名、医師1名、学生2名がスタッフとして参加し、大きなトラブルなく無事イベントを終えることができました。



今年は昨年より広報に力を入れ、高知学園大学の協力のもと高校へのチラシ配布を行ったり、病院へのポスター掲示やチラシ配布も行いました。また、同会場で行った一昨年の反省点を活かし、当日は会場前に大きめのポスターを設置するなどし、当日までイベントを知らなかった方にも立ち寄ってもらえるよう努力しました。臨床検査体験、健康チェックともに、例年より実施人数は多く、行列ができていたコーナーもありました。臨床検査体験の中で今年は特に顕微鏡コーナーの来場者が多く、60名の方に血液標本を観察してもらうことができ、貴重な機会を提供できたのではないかと考えます。健康チェックのコーナーは骨密度、もの忘れ度チェック、簡易ヘモグロビン測定、医師の健康相談コーナーを設置しました。どのコーナーも無料で気軽に検査や相談をすることができるため、自分自身の健康に目を向ける良い機会を提供できたと考えます。

臨床検査技師の職業アピール、検査の大切さの啓発ができるイベントであり、今年度の反省点を活かし次年度以降も運営していきたいです。

(高知県臨床検査技師会 吉永 由菜)

## 令和6年度 日臨技事業説明 オンデマンド研修を開催!

会員の皆様に日臨技の各事業について理解を深めていただくため、令和6年度地域ニューリーダー育成研修会の事業説明コンテンツを公開します。オンデマンド研修として、会員専用ページから無料で申し込み、受講ができますので、是非ご参加ください。

会 期：令和7年3月1日(土)から3月31日(月)  
 申 込 期 間：令和7年2月25日(火)～3月25日(火)  
 受 講 料：無料  
 点 数 付 与：生涯教育研修制度 基礎教科 20 点  
 申込・受講方法：会員専用ページより①事前参加申込み  
 → ②事前参加申込済一覧から受講



# 都道府県技師会 各地での取り組み(長野県編)

全国47都道府県それぞれに臨床（衛生）検査技師会があります。各都道府県技師会では日臨技と連携した活動のほか、地元の医療関連団体や自治体、時には企業とも協力して地域に根差した独自の活動を行っています。今回は、県下の6医療団体と連携して医療安全に関する合同研修を行っている長野県技師会の取り組みを紹介いたします。

## 長野県臨床検査技師会の医療安全に対する取り組み ～ 多職種で取り組む医療安全 ～

一般社団法人 長野県臨床検査技師会  
災害・医療安全担当 理事 小林 静香

長野県臨床検査技師会（長臨技）は、2022年度から看護協会主催の「医療安全多職種合同会議」に参加しています。この会議は長野県看護協会、長野県病院薬剤師会、長野県臨床工学技士会、長野県診療放射線技師会、長野県理学療法士会、そして長臨技の計6団体で構成されており、医療機関や在宅・介護施設など、あらゆる医療現場での安全管理を多職種が連携して行い、医療の質を保証することを目的としています。主な活動として年に2回、医療安全に関する合同研修を開催しています。

合同研修においては、毎回80人以上の参加者が集まり、転倒転落事故、ヒヤリハットという日常的な安全問題に加えて、医療メディエーションの基礎など普段臨床検査技師が学ぶ機会の少ないテーマも取り上げられます。講義やグループワークを通して異職種の視点を学ぶことができるとともに、自分の業務に対する新たな気づきを得ることができ、医療安全の重要性を再認識することができます。

今年度初回は、長臨技が研修会の企画を担当し、「臨床現場におけるエラーや事故とその対応」というテーマで研修を行いました。この研修では、JAMTマガジンでおなじみの根本誠一 関甲信支部長を講師に迎え、実際のエラーや事故に関する事例を通じて、グループワークを行いながらエラー予防の重要性を学びました。終了時のアンケートでは、「他職種のエラーについても考えることができた」「危険予知の重要性を実感した」「他職種の業務特性や考え方が参考になった」など前向きな感想が多く、研修の成果を感じられました。



日臨技 根本誠一 理事  
(医療安全委員)



研修会場

2回目の研修は名古屋大学医学部附属病院 副院長 患者安全推進部教授の長尾能雅先生をお迎えし、「基礎から学ぼう医療安全」というテーマで講演とシンポジウムが開催されました。前半の講義印象に残ったのは、普段から有事と平時の活動を連動させる患者安全活動のループのような取り組みが行えていれば重大な事象は起きなくなってくるということでした。また発生した有害事象の初動を良いものにしていくためにインシデントレポートの提出が重要であり、医療安全担当部署に提出することで病院が速やかに介入し患者の安全確保に繋がり、事象について透明性が確保され、レポートの中で明らかになったシステムの不備などに対し組織的な改善が可能になるとのことでした。後半のシンポジウムでは、各職種のシンポジストが自施設で行っている医療安全活動についての発表がありました。どの発表も職種それぞれの視点でされており、医療安全だけでなく、普段知ることのできない業務についても知ることができ有意義なシンポジウムでした。

今後会議内で症例検討も行っていこうということになり、より活動が盛んになることで、今以上に効果的な活動が行われていくと思います。このように、長臨技は他の職種と連携し、医療安全を守るための取り組みを進めています。今後も合同会議に継続的に参加していくのはもちろんのこと、会員にも積極的に医療安全多職種合同研修に参加してもらえよう周知していきたいと思っています。

（編集後記）今号も全国各地で開催された「検査と健康展」の様子が伝わり、臨床検査技師の活動が地域に根付いていることを改めて実感しました。特に、子どもたちが興味を持って体験に参加する姿が印象的で、未来の臨床検査技師が育つきっかけになればと思います。また、長野県臨床検査技師会の医療安全への取り組みは、他職種との連携の大切さを改めて考えさせられました。臨床検査の意義や臨床検査技師の役割を広める活動が、今後もさらに発展することを願っています。

（綿引）